

明日への扉

～大学生たちが挑む、地域と連携した共創のまちづくり～

丹波市でまちづくりに取り組む関西大学、関西学院大学、兵庫県立大学の学生たち。人口減少・少子高齢化などにより地域の活力が失われつつあるなか、彼らは地域と連携しながら課題と向き合い、解決策を探ることで自ら学び、また、私たち市民が郷土への「愛着、絆、誇り」を持ち続け、心豊かに暮らすことのできる社会の実現に向けて活動しています。

新春対談では、各大学を代表して3人の学生のみなさんをお招きし、活動を通して得られた成果や直面した課題、また、彼らが考える未来のまちづくりなどについてお話しいただきました。



Scene.1 各大学の取り組み 学生たちがもたらす新しいまちづくりのカタチ

市長 新年、あけましておめでとうございます。本日は、「若いちから」「柔軟な発想」を存分に発揮し、丹波市内で地域と連携しながらまちづくりに貢献されている3人の学生の方にお越しいただきまして。それでは、みなさんの活動について教えていただけますか。

成富 関西大学では、2007年に佐治で空き家を改修してまちづくりの活動拠点となる佐治スタジオを開設しました。「関わり続ける定住のカタチ」「21世紀の故郷づくり」をテーマに、私たちが持続的に丹波に関わり続けていくための居場所をつくり、地域との交流を行っていま

す。初めて佐治を訪れた時は、情緒のあるまちだと思いました。それと同時に家は立ち並んでいるけれど、少しひっそりとした印象も受けました。おそらく、通りに面している家の多くは、昔ながらの町家の名残りで、玄関口が土間になっていて生活空間が奥にあるためではないでしょうか。ですから、私たちが空き家を改修する際には、通りからも生活の雰囲気を感じられるようにオープンな空間にし、地域の方にも気軽に来てもらえるように工夫しました。

青木 関西学院大学では、毎年、総合政策学部2回生と法学部のゼミのメンバー

が中心となって、柏原スタジオを拠点に活動しています。春にまち歩きをして、

柏原のまちの魅力や課題を探ることから今年の活動をスタートしました。観光看板があまり目立っていなかったため、自分たちで観光マップをつくらうということになり、デート向けや外国人向けなどのマップをつくりました。また、関学の落語研究会の協力で落語カフェを開催し、地域の方に落語を聞いてもらいながらまちづくりの事例を紹介しました。最終目標は、学生たちがそれぞれのテーマに沿って調べたことをレポートにまとめ、地域のみなさんのまちづくりに生か

してもらえればと考えています。

市長 柏原は、柏原藩邸など多くの歴史が築かれてきたまちで、市内有数の観光スポットです。大手会館をはじめ歴史的遺産の活用についてみなさんから何かアイデアをいただけたらうれしいですね。

熊木 兵庫県立大学では、山南スタジオを拠点に大学生がまち歩きをして、そこから地域の魅力と課題を抽出してまちづくりの提案を行っています。7月には、地域の魅力が詰まった弁当づくりについて提案しました。これには地域の方々も賛同してくださって、「元氣村かみくげ」のみなさんとの共同企画で、丹波の食材

をふんだんに使った「ちーたん弁当」を開発し、11月に行われたちーたんの館オープン1周年記念イベントで販売しました。

市長 1周年記念イベントはあいにくの雨でしたが売れ行きはいかがでしたか。

熊木 50個の弁当を用意していましたが、販売開始から30分程度で完売しました。アンケートでは、観光客の方から「おいしかったよ」という声をたくさんいただいていたのもうれしかったです。

市長 多くの方に丹波の食材をPRするよい機会になりましたね。私は、行政はあくまでもサポート役として市民の主体

的なまちづくりを支援していくべきと考えています。みなさんが地域の人々と協力しながら丹波市の課題を探り、元気でにぎやかなまちをつくる取組みを行っていただいていることは大変うれしく、また、心強く感じます。みなさんが地域と関わり刺激を与えてくれることで相乗効果が生まれ、さらにまちづくりに対する機運が高まるのではないかと大変期待をしています。

新春対談 the member of the cast



成富 文香

Naritomi Fumika
関西大学・環境都市工学部
建築学科・員外研究生
吹田市在住 23歳
趣味/旅行、ファッション、
劇鑑賞 好きな食べ物/ア
ボカド、梨、トマト 将来
の夢/専攻の環境芸術と建
築を生かした仕事



青木 嵩

Aoki Takashi
関西学院大学・総合政策学
部2回生
三田市在住 20歳
趣味/料理、珈琲 好きな食べ
物/寿司、そば 将来の夢/発展途
上国でコミュニティデザイン(人
とのつながりを大切にしたいまちづ
くり)に関わることができる仕事



熊木 俊耶

Kumaki Toshiya
兵庫県立大学・環境人間学
研究科修士1年
神戸市在住 23歳
趣味/ひとり旅 好きな食
べ物/新潟の笹団子、柿の
葉寿司 将来の夢/出版社
または公務員



辻 重五郎

Tuji Jugorou
丹波市長
丹波市在住 72歳
趣味/読書、小旅行 好き
な食べ物/何でもいただきます
子どもの頃の夢/プ
ロ野球選手

Scene 2 これまでの成果とこれからの課題
まちづくりは「愛着、絆、誇り」など目に見えないものの積み重ね

市長 みなさんが活動を通して得たことや苦労されたことについてお聞かせいただけますか。

成富 空き家改修の際に、私たちの姿が通りから見えるようあえてオープンな空間にした結果、次第にまちの人から声をかけてもらえるようになりました。今ではみなさんとも顔なじみで、手づくりのバーカウンターにお酒を飲みに来てくれたり、近所のおばちゃんごはんをつ



くつてくれたりとすっかり仲良しです。また、居場所があるおかげで、佐治のまちが将来帰って来られる故郷になります。ここがある限り、地域の人々との持続的な交流が可能となります。これからは、地元・氷上西高校の生徒など、若者を巻き込んで地域を元気にする方法を考えていきたいです。

青木 今のところ目に見える大きな成果は得られていないのが実情ですが、少しずつ地域のみなさんに大学生が柏原に来て何かやっているという認識が広まってきているように感じます。もともと地域の人たちとの交流を広げ、柏原の歴史などの魅力を肌で感じることで、より効果的なまちづくりを提案したいですね。一方、まちづくりに対する人々の思いに温度差を感じているところもあります。私たちがカフェをオープンした時も、来てくださるのは高齢の方やまちづくりに関心がある方々で、まちでは若い人を見かけるけどなかなか参加してもらえません。そこで、地元の高校生たちと一緒にまち歩きをして、彼らの視点でまちの魅力を探り、一緒に活動ができればと

考えています。

熊木 山南地域は、恐竜化石発見のビッグニュースで注目を集めたところで、地元の方は観光客に楽しんでもらえるよう一生懸命です。また、私たち市外から来た学生の意見にも真摯に耳を傾けてくださいます。地域の人々と一緒に取り組める環境があったからこそ、ちーたん弁当が完成したのではないのでしょうか。しかし、私たちの活動は学校の授業の一環として行っているため、単位取得後も積極的に丹波を訪れようとする学生は少ないのが現状です。どうすれば持続的な活動につながるのかを模索しているところ



市長 まちづくりにおける成果とは何かと言われると「愛着、絆、誇り」など目に見えないものの積み重ねですから、一朝一夕に変化が現れるものではありません。地域と連携した活動が持続的なものとなり、お互いが刺激し合うことにより少しずつでも地域が変わっていくでしょう。それを実感できたとき、成果が得られたと言えるのではないのでしょうか。

みなさんには、丹波市での活動を通じてひとつでも多くのことを学んでいただきたい。学生時代に地域に入って、市民とのふれあいやまちづくりを体験すること自体に大きな意味がありますし、まちづくりの目的や必要性、さらには課題解決の手法を生きた教材を使って学ぶことができれば、社会に出てから仕事や地域活動などさまざまな場面で生かすことができると思います。

市内で活動する3大学の取組みを Pick up 地域と関わりまちづくりに挑戦する学生たち

関西大学
Kansai Univ.

「農山村集落との交流型定住による故郷づくり」

■活動拠点 / 佐治スタジオ

■活動内容 /

学生たちが主体となって空き家を改修。学生や卒業生、地域の大人や子ども、都市部で暮らす人々が集う場「まちの居場所づくり」を通して、持続的に関わり続ける環境づくり・交流型定住による地域再生を実践。



佐治スタジオの改修作業

昨年の愛宕祭では丹波竜の造り物を作成

関西学院大学
Kwansei Gakuin Univ.

「地域で学ぶ・地域と学ぶまちづくり」

■活動拠点 / 柏原スタジオ

■活動内容 /

まち歩きをしながらまちの特性や課題を把握。ワークショップをとおして地域住民とまちの課題などを共有し解決をめざす。関学カフェ、大手会館の模型製作、子どもたちの買い物を通してまちに親しみを持ってもらうためのイベント「はじめてのお使い」など、さまざまなまちづくりの仕掛けを行っている。



柏原藩織田祭の武者行列にも参加（写真左）まち歩きを通して気づいたまちの魅力や課題について話し合うワークショップ（写真右）

兵庫県立大学
University of Hyogo

「丹波地域の魅力の発見と学習・交流情報発信」

■活動拠点 / 山南スタジオ

■活動内容 /

地域住民から土地の魅力や課題について聞き取りを行い、恐竜化石などの地域資源を生かしたまちづくりを実践。「元気村かみくげ」と共同で「ちーたん弁当」を企画。



フィールドワークを通して地域の魅力や課題を探る学生と地域の人々

地域と一緒に企画した「ちーたん弁当」の調理



撮影協力 げんてん（東芦田）
★登録有形文化財 蘆田家住宅を活用した古民家カフェ

Scene 3 学生たちが抱く丹波市の印象

「谷川駅で出会った親切なおばさん。丹波の人の温かさを感じました」

市長 みなさんは、丹波市の歴史や文化、風土についてどのように感じますか。丹波市の魅力や課題について教えてください。



波に来てもらえるようなきつけづくりとして、丹波市の魅力を伝える発信力を高めることが必要ではないでしょうか。

青木 丹波市の豊かな自然が育む食材、例えば霧芋や黒豆をはじめとする野菜など、市外に誇れる食材がたくさんあると思います。また、ゆつたりと過ごせるまちの静けさも魅力のひとつですね。柏原のまちを歩いていると心が和みます。その一方で、静けさが時々寂しさに変わってしまっている所もあるように感じます。昔ながらの田舎の風景ではなく、寂れた風景が混在してしまっているところがあり、少し残念な気持ちになることがあります。

市長 ゆつたりとした空気が流れる田舎の雰囲気は私も好きですね。しかし、空き家が増え、人がいなくなるとたんに寂しさが漂う。そういった状況にさせないためにも、地域づくりは必要不可欠なものだと思います。

熊木 丹波市を訪れるようになって強く感じたことが人の優しさです。ある日台風で電車が止まり谷川駅で途方に迷っていた時に、売店のおばさんが「お腹がすいてへん？おにぎりをもつてきてあげ

るから待つき」と声をかけてくれました。さらに別れ際には「こんな台風の日に来てもらって悪かったね。これに懲りずにまた丹波に来てください」と言ってもらいました。見ず知らずの私たちに親切にしていたことにとても感動し、厚い人情を感じました。課題としては、山南地域には、ちーたんの館や発掘現場、その他にも有名なお寺などが点在していますが、初めて訪れる人々には、それらを見て回るルートが少し分かりにくいように感じます。案内標識がもう少したくさんあってもいいのかなど。それとお食事処がもう少し充実していれば、観光客の滞在時間も長くなるのではと思います。

市長 丹波の人は独特のおもてなしの心というか、田舎らしい心の豊かさという人情があります。また、昼夜の寒暖の差が育むおいしい農作物やお米、さらには懐かしくほっとできる田舎の風景があり、いずれも誇りを持てるものです。ただし、それらを日常的に感じている私たちは、時としてその魅力を見落したり、軽視したりしてしまう事もあるかもしれません。ですから、こうやって市外に住むみなさんの視点から率直に丹波市のよさを語っていただくことで魅力を再認識できますし、郷土への愛着、誇りを持つきっかけにもなります。また、地域資源



がたくさんあっても土の中に埋まったままだと資源とは言えませんし、磨かないことには光りません。これらを掘り起こしたり磨いたりしたうえで、さらに発信力を高め、「丹波市に行ってみよう」「丹波市に住んでみたい」といった気持ちを高めていくことが必要です。

Scene 4 地域と連携したまちづくりの未来

「学生が来てから地域が変わった」と言われたい

市長 これから、地域の人々とのように関わり、どのようなまちづくりをめざして活動に取り組んでいかれますか。

成富 現在3軒目の空き家の改修を行っています。もともと地域の人や都会の人などの意見を取り入れて、みんながそこに集まれば自然と会話がはじまり、そこから何か新しいまちづくりのアイデアが生み出される、そんな空間になればと思います。こういった居場所がいつまでも佐治のまちにある限り、私たちもまた戻ってこられますし、社会で得た知識や経験をこのまちにフィードバックできるかもしれません。そういった人たちが増えてそれがつながっていくことで、私たちがテーマとして

掲げている「関わり続ける定住のカタチ」が実現するのではないのでしょうか。

青木 このまちで多くのことを経験したことで、将来まちづくりに関する仕事に就きたいという思いが強くなりました。これからもまちづくりを自分のライフワークにしたいですね。大学としては、柏原スタジオを拠点に、小規模であっても多くのイベントなどを開催し、もともと柏原のまちに溶け込み、地域の一員として活動することが目標です。

熊木 「学生が来てから地域が変わった」といわれるような活動にしていきたいのが理想です。丹波の食材をどのように調理すれば観光客にとって魅力的な弁当になる

のかを私たち学生がアイデアを出し、地元のお母さんたちに料理指導をしていただくといった形で、さらに内容を充実させていこうと考えています。こういった活動を積み重ねることで地域が活性化し、私たちも地域の豊富な資源にふれながら自分たちの成長につなげていきたいですね。

市長 私の元気の源は、いつも丹波市をどうしようかと前向きに考えていることではないかと感じています。みなさんにも常に挑戦し続ける気持ちをもってほしい。みなさんの若い力は、地域にとって、も大きな財産です。若者の特権として、あまり責任を感じることなく、これからもどんどん地域に入ってもらってまちづくりに取り組んでいただきたい。

地域はみなさんを温かく迎え、みなさんの力を必要としています。みなさんも

地域が誇る人やモノなどの豊富な資源を活用しながら、多くのことを学んでほしい。そして、将来ここで学んだことを生かして、自分の夢を実現していただけたら最高ですね。成長したみなさんにかかえることを楽しみにして対談を終わりにしたいと思います。

本日は、ありがとうございました。

■新春対談を終えて
- epilogue -

私が考えるまちづくりの役割は市民です。市民が主体となって自分たちのまちをよくしていこうという機運が高まってはじめて地域の絆が生まれ、魅力が発揮され、市民が住み続けたいと思えるまちに近づいていくと考えます。ただし、まちづくりには明確なゴールは存在しませんし、多くの時間とエネルギーを必要とします。地域は大学に「学びの場」を提供し、大学は地域に新しいまちづくりの風を吹き込めたい。お互いがよい関係を築きながらともに成長していくことが望まれます。

よりよい暮らしをめざして、大学と地域が協働を超えた共創のまちづくりを行っていくことで、双方の未来に明るい光を灯してくれるのではないのでしょうか。

丹波市長 辻 重五郎



「みなさん、いつそのこと丹波市に住んでくれたらうれしいですね」市長談